

1 年 1 組 図画工作科学学習指導案

授業者 中川 佑紀

授業① 図 工 室

1 題材名 いっぱいつかって なにしよう ～緩衝材で～

2 題材のねらい

・緩衝材の扱いに十分に慣れるとともに、つなぐときに絵や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくる。 【知識及び技能】

・緩衝材の形や触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。

【思考力、判断力、表現力等】

・たくさんの緩衝材を基に、思い付いたことを試す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形などに関わり楽しい生活を創造しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 緩衝材をつなぐときの感覚や行為を通して、いろいろな形などに気付いている。	① 緩衝材の形や触った感じなどを基に、自分のイメージをもち、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかを考えている。	① たくさんの緩衝材を基に、思い付いたことを試す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

4 本題材で重点的に育成を図る資質・能力とその手立て

挑戦心	① どのようにすれば解決できるか、考えている。 ② 課題解決のためにいろいろな方法を試している。 ③ あきらめずに、やりきろうとしている。
伝える力	① 相手や目的に合わせて、表現の工夫（図・表・グラフ・式・写真・動画など）をしている。 ② 考えの理由や根拠を説明している。 ③ 相手に自分の考えが伝わったか確認している。 ④ 相手や場面に合わせて言葉を選ぶことができる。

5 指導にあたって

（１）題材観

本題材は、身近にある同じ形や種類の材料を並べたりつないだりして造形遊びをする活動である。使用する緩衝材は、一度は目にしたことのある材料であり、少量の水分で接着したり、外したりすることができ、つなげやすく軽いというよさがある。また、つなげる活動をくり返す中で児童が自然に規則性のある形をつくりだしやすいため、思い付いたことをいろいろ試したり、自分の思いに合うように試行錯誤したりすることができる。同じ材料を使うことで、友達の活動を見て自分の作品に生かしたり、似ている活動をしている友達と一緒に活動をはじめたりすることが考えられる。さらに、面白さや違いにも気付きやすく、自分や友達の作品のよさにも気付くことができる題材である。

一人一人が、活動を通してつくりながら思い付いたり、どんどん自由に試したりしてほしいと考え、

本題材を設定した。

（２）児童観

どの題材においても、興味・関心をもちながら楽しんで活動し、自分で新しい工夫を見付けることに意欲的である。

挑戦心について、実態に合った題材や主題と出合わせることで、児童は自分の表したいことを自分なりの表し方で表現していくことができている。「しあわせの花」の題材においては、学校・学年目標でもある「しあわせ」という言葉と図工の時間に改めて出合わせた。「うれしい・楽しい・だいすき」なことをしているときは、「しあわせ」と共通理解し、自分の好きなことや夢へと思いを広げ、「しあわせ」の色を考えた。その見つけた色と花びらの形を組み合わせ「しあわせの花」を表現することができた。

伝える力について、「どんどん かくのは たのしいな」では、お弁当に入っていると嬉しい食べ物をオイルパステルでどんどん描いた。描きたいものが思い付いて描く児童が多かったが、何を描くかを悩んだり、一つに時間がかかりすぎてしまったりする児童も見られた。そこで、交流の時間を設けることで、次に進むことができている姿が見られた。また、「ねんどで ごちそう なにつくろう」では、粘土でテーマに合わせた食べ物をつくり、友達との交流で得た技を生かし、自分の好きな食べ物をつくった。友達との交流で、自分の思い付かなかったことを知る機会ということを理解し、交流することを楽しみにしている。

前題材「ちょきちょきかざり」では、「おって たてると」の題材で習得した、自由な形に切るために、紙を動かしながら切る「はさみドライブ」の技を生かし、友だちと作品を見合ったり話し合ったりすることで、さらに発想を広げて表現する姿も見られた。

（３）指導観

挑戦心について、導入で、緩衝材が少量の水分でくっつくことを演示し、実際に緩衝材に触れながら基本的なつなぎ方を知る時間を設ける。その後、大量の緩衝材を提示することで、どんなことができそうかを考え始める。そこで、それを問うことで、まだどうしようかとイメージがもてない児童への支援にもなると考えられる。また、友達と協力してつくろうとする児童が見られた場合は、それを認め、活動の幅を広げられるようにする。活動の途中ではつなぎ方、形などを紹介したり、発表を促したりして、全体で工夫を共有する時間を設ける。

伝える力については、つくりながら表したいことを思い付いたり、更新したりできるように、友達との対話が自然にうまれるように場を工夫する。全体が見渡せる図工室での活動とし、教室にはひもを渡し、「つなぐ」だけではなく「吊るす」活動もできるようにする。「吊るす」活動により、立ち上がっての活動にもつながり、活動の幅も視野も広がると考えている。

また、活動中にタブレットで教師が撮った作品を大型テレビに映し、「なにをしているのかな」と問うことで、友達の活動にも目が向くようにする。活動の始めは、緩衝材を自由につないでいただけの児童も、活動していく中で変化していく形や、意図的だったり自然に生み出されたりした形、規則性があることできれいな形になることに気付くであろう。さらに、友達とつくすることで、大きな作品がつくれることにも気付かせ、価値付ける。そうすることで、「もっと〇〇したい!」「もっと大きくしたい!」などの児童の思いを引き出しながら、活動の幅を広げていけると考えている。

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

緩衝材の形や触った感じなどを基に、自分のイメージをもち、造形的な活動を思い付き、感覚や気もちを生かしながら、どのように活動するかを考える。 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 学習の展開

時	主な学習活動と児童の思考の流れ ○教師の発問 ・予想される児童の思考	・指導 ◎評価 ★9つの資質能力の育成に関わる手立て
7	1. 材料と出会い、課題をもつ ○どんなことができそうかな。 ・水でくっつくんだね。 ・長くつなげたら、へびみたいになりそうだから、いっぱいあったらいいな。 ・大きい四角形みたいにつないで、ざぶとんみたいにして座りたいな。	・安心して活動できるように、ウェットティッシュで緩衝材のつなぎたい箇所を濡らし、つなぎ方を演示する。 ・つなぎ方を選択できるように、試しの活動で見つけたつなぎ方を交流する時間を確保する。
23	2. いっぱいある材料を使って、活動する ＜緩衝材でなにしようかな＞ ・わあ！いっぱいだ！ ・長——くつなげたい！ ○いっぱいでどんなことができそうかな。 ・いっぱいあるから、もっと長——いへびにしたいよ。 ・大きいざぶとんつくりたい！大きいから、一緒にやろうよ。 ・なにしているの？面白そうだから、まぜてほしいな。	・できそうなことを共有し、活動の見通しがもてるように、共有する時間を確保し、視覚的、構造的な板書にする。 ・はじめは、最低限の材料を提示してつなぎ方を考えることで、大量の材料と出会った時の感動を味わうことができるようにする。 ★思い付いたことを存分に表現することができるように、材料と時間を確保する。 (挑②)
10	3. 全体で交流する ○なにができたかな。 ・自分と○○さんで協力して、長——いへびにしたよ。 ・上から吊るして、アサガオのつるみたいにどんどのばしていったよ。 ・花の形をつくっていたら、つるに花を咲かそう！って思いついて、花が咲いたよ。	・自分の思いに合う形になるように、友達作品を見合い、新たな表現方法などを交流できるかわり合いの形態を工夫する。 ・場の離れた友達の作品を全体で共有するために、学習支援アプリを活用し大型テレビで映し出す。
5	4. まとめ、ふりかえりをする ○活動してみてどうだったかな。 緩衝材をつないだら、へび、道路やアサガオのつるができたよ。友達といっしょにつないだら、どんどん新しいことが思いついたよ。 ・おもしろい形がいっぱいあるね。 ・次はどんな材料との出会いが待っているのかな。	★一緒に活動した友達とどんな交流をしたかを問い、友達と活動することや伝え方のよさを価値付ける。 (伝③) ◎緩衝材の形や触った感じなどを基に、自分のイメージをもち、造形的な活動を思い付き、感覚や気もちを生かしながら、どのように活動するかを考えている。 【思・判・表】 (作品・発言)